



富士山剣ヶ峰にて



登山中に眺める御来光

## 近いようで遠かった、富士山に初登頂

令和6・7年度の景観整備機構・まちづくり委員（西部ブロック）の大林勇と申します。前回の瓦版から予想外に早く、執筆の機会を頂き、何を書こうか悩んだ末に、静岡県民にはおなじみの「富士山」について書いてみることにしました。

空気が乾燥し、大気透過率の高くなる冬季には、私の住む浜松市北部からでも富士山の姿を眺めることができます。富士山は県民にとっては絶対的存在であり、小学校の頃から親しんできたものです。「あたまをくもの上に出し〜♪」と授業で皆さんも何度も耳にしたことでしょうし、新幹線に乗るとついつい、富士山の姿を探してしまいますよね。それほど身近な存在であるにも関わらず、「いつか登ろう」、「来年登ろう」と先延ばしにしたまま、毎年9月の「登山道閉鎖」のニュースを耳にする富士山未経験の方は意外と多いのではないのでしょうか？ 富士山は古来、信仰の対象となり、浮世絵「富嶽三十六景」にも描かれたり、日本のみならず海外からの旅行者にも人気があります。東京都墨田区にある、すみだ北斎美術館（設計：妹島和世建築設計事務所 2016）でも、富士山を描く葛飾北斎の様子が収められています。私自身、旧東海道を自分の脚で辿っているときに、昔の旅人と同じように安倍川や薩埵峠から眺める富士山の美しい姿に心奪われた記憶があります。

私は長男が小6の頃に富士宮ルートから一緒に登山始めたのですが、天候が悪く8合目で下山し、それから10年が経ってしまいました。いつかリベンジを、と思ったまま、毎年の先延ばしを繰り返し、私もそれなりの年齢に。今回、瓦版の執筆が回ってきたこと、沼津市で学ぶ次男が最終学年であること、これも一つの縁かと思い、出し忘れていた宿題のような「富士登山」を今年こそ目指すことにしました。そうと決まったら、まずは基本事項の復習です。富士登山には4ルートあり、静岡県側からは、富士宮・御殿場・須走の3ルート、山梨県側からは、吉田ルートがあります。いずれのルートもスタート地点は、「5合目」ですが、私が登った御殿場口は、近くの富士宮口よりも約1000mも

標高が低いのですが、マイカー規制が無い、混雑が少ない、登りながら御来光が見えることから、御殿場ルートを選びました。

ルートにより山小屋の数が異なっており、私が登った御殿場ルートでは山小屋が非常に少なく、食料、飲料、トイレについては準備と覚悟が必要です。なお、トイレは微生物が汚物を分解する、バイオ式的环境配慮型トイレで、使用の際には協力金300円が必要です。100円玉を多めに用意すると安心です。

さて、仮眠を済ませ、朝3時から登山開始です。ハードな御殿場ルートを選ぶ人は、富士山登山者の5%程度と言われるだけあって、視界には誰も人がいません。こんな暗闇を体験できる機会は現代ではなかなか無く、まるで違う惑星にでも来てしまったかのようです。暗闇の中、永遠に続きそうな火山灰の砂礫を踏みしめ、GPSアプリとヘッドライトを頼りにワクワクと不安を胸に黙々と歩を進めます。高度が上昇するに従い、徐々に周りも明るくなり、登山道の様子も見えるようになり、ほっと一息。東の方向を見ると眼下に広がる雲の向こうから顔を出す太陽と山中湖の穏やかな湖面、忘れられない景色です。

山頂を目指して進んでいくと、御来光を眺め終えた人々がポツポツと下りてきます。報道で話題の軽装な外国人旅行者も多く見ますが、皆さん元気に挨拶を交わしながらマナーよく、すれ違って行きます。休憩をしながら6時間程度で御殿場口の山頂の鳥居に到着。その後、登頂証明書を購入し、剣ヶ峰で記念撮影をし、折角なのでお鉢めぐりも終え、帰りは霧雨の中、大砂走りもクリアし無事下山。10年越しの宿題をやっとクリアした達成感に包まれたのでした。ひょっとして、これは静岡県民として生まれてから50数年の宿題だったのかも知れません。

皆様も体力に応じたルートでぜひ、富士の頂から静岡県を眼下に眺めていただきたいと思います。心地よい疲労と達成感に満たされるはずですよ。

（景観整備機構・まちづくり委員会 大林 勇）